知っておきたい！　シロアリの生態と駆除について

最近暖かい日が増えてきましたよね、そこで気になってくるのが「虫」についてです。

今回は『シロアリ』について生態と駆除方法についてご紹介していきます。

日本には現在、２２種類ものシロアリが生息しています。

その中で建築物に被害を与えるシロアリは主に「ヤマトシロアリ」と「イエシロアリ」です。

その他にも最近では「乾材シロアリ」の仲間である「アメリカカンザイシロアリ」や「ダイコクシロアリ」の被害も増加しています。

※以下、コロニーとは集団・社会のことを表します。

発生時期、場所、１コロニーの個体数

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 名称 | 発生時期 | 場所 | １集団の個体数 |
| ヤマトシロアリ | ４～５月頃の蒸し暑い日、雨が降った翌日の午前中に群飛 | 北海道を除く日本全土 | ２～３万匹 |
| イエシロアリ | ６～７月頃の夕方にかけて群飛電灯の下に集まる | 神奈川県以西の海岸線に沿った温暖な地域、千葉の一部、南西諸島、小笠原諸島 | ５０～１００万匹 |
| アメリカカンザイシロアリ | 冬以外のほぼ１年中、３～１１月の日中の小規模で数回群飛 | 太平洋沿岸、瀬戸内海沿岸 | 数百～数千匹 |
| ダイコクシロアリ | 冬以外のほぼ１年中、３～１１月の夕方から夜に小規模で数回群飛 | 奄美大島以南 | 数十～数千匹 |

その他の特徴

・ヤマトシロアリ

イエシロアリと同様に被害報告が多い種類。侵入経路は地面・地下からで乾燥に弱く水を運ぶ能力がないため、住宅の被害は基本的にあり高い位置までは及ばないが雨漏りなどの影響で高い位置の木材が湿っていると加害されることもある。

羽アリは頭部と体が黒く、胸部のみ黄色で兵隊アリは頭部が長方形で少数の働きアリからコロニーを作るので駆除は念入りに行う。

・イエシロアリ

ヤマトシロアリと同様に被害報告が多い種類。侵入経路は地面・地下からで乾燥した木材でも水を運び湿らせてから加害するため、天井まで被害が及ぶこともある。ヤマトシロアリより少し大きく、被害の進行が早く甚大な被害を及ぼす。

羽アリは体が薄褐色で、走光性があり群飛後電灯の下などに集まる。

兵隊アリは頭の形が丸っぽく、警報フェロモンを出す際に頭部から粘液を出す。

加害部分だけでなく巣を処理することが重要。

・アメリカカンザイシロアリ

輸入家具などに紛れて日本に入ってくるため、分布地域以外にも発生の可能性がある。

名前の通り乾材を食べ、湿気がなくても活動できる。

侵入経路が様々で、被害箇所の特定が難しく駆除も困難。

羽アリの群飛で発見されることもあるが、ほとんどの場合は被害箇所付近に積もった薄茶色の砂粒状の糞がきっかけ。

羽アリは体が黒く、頭部と胸部が赤い。

兵隊アリはヤマトシロアリ・イエシロアリよりはるかに大きく、顎も巨大。

小規模コロニーが点在するために完全な駆除が難しい。

・ダイコクシロアリ

寒さに弱いため本土には生息していないが、地球温暖化の影響で本土上陸が懸念される。

アメリカカンザイシロアリと同様、乾材を食べるシロアリで湿気がなくても活動できる。

侵入経路が様々で、被害箇所の特定が難しく駆除も困難。

羽アリの群飛で発見されることもあるが、ほとんどの場合は被害箇所付近に積もった薄茶色の砂粒状の糞がきっかけ（アメリカカンザイシロアリの糞よりも小さい）。

羽アリは黄褐色で兵隊アリは頭部が体の４分の１を占めており、前面が裁断状で大黒天の頭巾

の形に似ていることから名前が付けられている。

シロアリをしっかり駆除するのは、プロでないと難しいといわれています。

シロアリは普段、土の中や木の中に生息していて、市販の殺虫剤などでは部分的な処理しかできません。

今回は、シロアリ駆除のプロがどんな駆除方法や対策をしているかをご紹介します。

小規模コロニーが点在するために完全な駆除が難しい。

シロアリ対策はいつするのがいい？

上記でもご紹介したように日本はシロアリの多い国です。

被害総額は年間１０００億を超えるともいわれており、もはや他人事ではありません。

シロアリの発生と築年数には相関性はありませんが、建物が古くなればなるほど、シロアリの発生する確率は上がっていきます。

築年数が約１０年でシロアリの被害が発生する確率は約１０％と考えられています。そして築年数が２０～３０年と経過していくにつれて、シロアリ被害は１０～２０％以上へと増加していく傾向にあります。

シロアリ対策は新築を建てるタイミングが最も有効的です。

物事には必ず原因があり、シロアリが発生することにも当然ながら原因があります。

シロアリ被害の原因の多くが、新築を建てた時点ですでに発生しており

『ここ、何も処理していない！』

『こんな材料使っちゃだめ！』

『この穴塞いでない・・・』

と問題がたくさん出てきます。

起こるべくして起こってしまっているわけですね。

その場合、建て主の方は数十万から、場合によっては数百万もの改修費を支払うことになってしまいますが、新築時にこれらの問題をしっかり解決できていれば、そのようなことは起こりません。

そこで新築時におけるシロアリ対策の注意点を５つピックアップしました。

新築を建てる際にはぜひ参考にしてみてください。

新築シロアリ対策１：点検しやすい作りにする

点検しやすいというのは、シロアリ対策の王道です。

早期発見ができれば被害は浅くて済みます。

シロアリが来ると蟻道という道が発生します。

蟻道とはシロアリが土や排泄物・餌の食べかすで作った道のことを言い、彼らは光や乾燥が苦手なので地面の中から餌の木材までを行き来するためのトンネルとして蟻道を利用します。

で、「蟻道」ができているかどうか点検することができる造りにするのが有効でしょう。

床下の点検ができる作りにする

床下に潜るための点検口の設置と人が床下に入って動き回るための高さが必須です。

できれば３３㎝以上は確保しておきたいところです。

また、基礎の立ち上がり部分に、人通口という人が通ることができる開口部を設置して、床下全体をくまなく点検できるようにすることも必要です。

基礎の外側も点検できる作りにする

家の外から見た時にも、蟻道を見逃さないように、基礎の近くに障害物を置かないようにする事も重要です。

障害物というとピンと来ないかもしれませんが、物置や、ウッドデッキなどがそうです。
それらを設置する事で、基礎の立ち上がり部分が隠れてしまう箇所が出てきてしまいます。

特に大きな物置などは一度設置してしまうと動かせないので、隙間から覗き込んでも、蟻道の有無を確認することは物理的に不可能でしょう。

収納スペースが増えるというメリットはありますが、被害のリスクを考えると避けたほうがいいでしょう。

基礎断熱工法をやめる

基礎の立ち上がりに断熱材を張り付ける基礎断熱工法は、シロアリ業者が全否定しているくらい被害にあう確率が高い断熱工法です。

春付けた断熱材と基礎の立ち上がりの間を通って侵入するため、外から蟻道が見えない事と、基礎断熱に使用する断熱材をシロアリが抵抗なく食べてしまうことが理由となっています。

以上が点検しやすい作りとして気を付けておくべきことですが、自分でも蟻道ができていないかを定期的に確認する習慣をつけておくことも必要です。

新築シロアリ対策２：樹種の選定に頼りすぎない

１つの屋根を建てるためには、様々な種類の木が使用されています。

加工しやすい木、変形しにくい木、腐りにくい木、そして、シロアリに食べられにくい木。

それぞれ適した場所に使用されることで性能を最大限に発揮することができます。

地面に近い土台や一階の柱などは、シロアリに強い樹種を選定することが重要です。

ですがこれを間違えてしまうと家が建った瞬間から、ロアリ被害のリスクが高くなってしまいます。

シロアリ対策に有効な樹種

チーク

ヒノキ

ヒバ

シロアリ被害にあいやすいとされる樹種

ホワイトウッド

スプルーツ

エゾマツ

以上が、シロアリ対策に有効な樹種と、被害にあいやすいとされている樹種になります。

さらに樹種だけでなく、同じ樹種の中でも、心材、辺材という部分によってもシロアリ被害に強い、弱いがあります。

丸太を小口から見て中心の赤みがかった部分が心材と呼ばれ、水分が非常に少なく、シロアリ対策に有効ですが、その一方で辺材は向いていません

シロアリ駆除の基本処理

シロアリ駆除の基本処理は大きく分けて３つあります。

・木部処理（せんこう注入処理、木栓処理、吹き付け処理）

・土壌処理

・上回り処理

これらの処理を家の構造に合わせ的確に行うことで、シロアリを確実に駆除することができます。

次にこれらの具体的な内容についてご紹介していきます。

シロアリ駆除の基本処理【木部処理編】

一番被害に遭うのはシロアリの主食である木材（セルロース）です。

そこでシロアリ駆除専用の薬剤を使用し、木材をシロアリから守るための「木部処理」を行います。

木部処理には工程が二段階あるので、詳しくご紹介していきます。

【第一段階：せんこう注入、木部処理】

※せんこうは穴をあけることなどの意味です。

シロアリの侵入経路であり生息場所となる木材は表面だけなく、内部まで処理が必要になります。

そのためドリルを使った処理を行います。

1. 束柱と大引き、柱と土台などの地面と接している部分や木材の接合部付近にドリルで穴をあけます。
2. 開けた穴にノズルを使用して木材処理剤を注入します。（注入処理）
3. 薬剤の浸透力を高めるために木栓を穴に打ち込みます。（木栓処理）これにより、処理後の見た目もよくなります。

この処理を約２５０か所（※）実施します。

※３０坪の場合。同じ広さでも構造などにより処理数が変わります。

【第２段階：吹き付け処理】

シロアリの侵入経路になりやすい重点箇所をせんこう注入、黙寸処理した後に、柱、土台、束柱などの表面に薬剤を吹き付けます。

吹き付け処理にムラがあると、薬剤のかかっていない場所からシロアリが侵入する可能性があります。

適切な箇所に十分薬剤が浸透するよう、丁寧に処理を行います。

プロが実践している木部処理のポイント

実際にシロアリ被害にあっている箇所やシロアリが好む水回り、玄関下などは特に入念な処理をしなければなりません。

通常のせんこう注入、木栓処理ではなく「千鳥せんこう」と呼ばれる方法で、入念な処理をします。

狭くて暗い床下でも的確に構造を把握し、隠れたシロアリ被害を発見し、何入りに処理を行います。

また、木材に水で希釈した薬剤をまくと、腐ってしまう原因になるのでは？と心配になりますが、木部処理に使用する専用薬剤には「防腐成分」が含まれていますので安心です。

・シロアリ駆除の基本処理【土壌処理編】

シロアリは土の中に生息しているので、家に侵入する場合も床下の土壌から侵入してきます。土壌からの侵入を防ぐために、床下の地面（土壌）に薬剤のバリア層を作る処理を行います。

特に、基礎の内側や束石、配管の立ち上がりなどはシロアリが侵入しやすいポイントになっているので、重点的にシロアリ駆除の薬剤を散布します。

シロアリ苦情の薬剤は、専用薬剤を水で希釈して使用しますが、庭や周囲に池や井戸がある場合は注意が必要です。

万が一にも、薬剤が池や井戸の水に混入しないよう「粒剤」と飛ばれる粒上の薬剤を使用します。

溝を掘って薬剤を散布し、薬剤層を作ります。

シロアリ駆除の基本処理【上回り処理編】

浴室、玄関、勝手口などは床下部分が塞がれている場合も多く、床下だけのシロアリ対策では十分な効果が見込めません。

こういった場所は床上から処理を行います。

玄関や勝手口、浴室のタイルに穴をあけ、内部にシロアリ駆除の薬剤を土壌注入します。

処理後は痕が目立たないように穴をセメントで埋めます。